

15. 関係詞 教材サンプル

■空所に入れるのに最も適当な語句を、下の①～④から一つずつ選びなさい。

1. He is a person () really likes to eat.

① who ② what ③ whom ④ which

(拓殖大)

和訳：彼は、本当に食べるのが好きな人です。

※a person という「人」を表す語が先行詞であることと、() の後ろに likes という動詞が続いていることから、主格の関係代名詞 who が入る。

関係代名詞の格変化

	主格	所有格	目的格
人	who [that]	whose	whom [that]
人以外	which [that]	whose	which [that]

※目的格の関係代名詞は、省略されることが多い。

例：I have an uncle who lives in Paris. [主格]

S V

I have an uncle whose son lives in Paris. [所有格]

(=the uncle's son)

I have an uncle whom I respect. [目的格]

(respect の) O S V

※関係代名詞の格変化は、「先行詞の種類」と、関係代名詞よりも後ろの部分に「どのような主要素（または語句）が欠けているか」で決まる！

補 足

that が好まれる場合

- I. ① 先行詞に最上級の形容詞がついているとき。
② 先行詞に序数詞や the same 「同じ」、the only 「唯一の」、the very 「まさに」などがついているとき。
③ 先行詞に all, every, any, no がついているとき。
④ 先行詞が everything, anything, nothing などのとき。
- II. 先行詞が<人+物>からなるとき。
例：A truck hit a man and his dog that were taking a walk.
「トラックが、散歩中の人とその飼い犬をはねた」
- III. 疑問代名詞の who の直後にくるとき。
例：Who that knows him can trust him? ※Who who knows…? は不自然。
「彼を知っている者なら、誰が彼を信用できようか（いや、できない）」

2. She is a famous singer () songs many people sing.

- ① who ② whose ③ whom ④ that

(東海大)

和訳：彼女は、多くの人々がその歌を歌う有名な歌手です。

※本来の文 → She is a famous singer. Many people sing her songs.

ポイント 所有格の関係代名詞の直後には、「冠詞のない名詞」が続く！

3. I ate too much, () was a big mistake.

- ① it ② that ③ this ④ which

(千葉商科大)

和訳：私は食べ過ぎてしまったが、それが大きな間違いだった。

関係代名詞の非制限用法（継続用法）

関係代名詞の前に「,」をおいて、先行詞を補足的に説明する用法。《文語》

例：I have two daughters who are unmarried. [制限用法（限定用法）]

「私には、未婚の娘が2人いる（娘は他にもいるという含みがある）」

I have two daughters, who [=and they] are unmarried. [非制限用法（継続用法）]

「私には娘が2人いて、2人とも未婚だ（娘は2人しかいない）」

非制限用法の注意点

- ・ that にはこの用法はない。
- ・ 目的格の関係代名詞であっても省略できない。
- ・ which はこの用法の場合に限って、直前の“文内容”を先行詞として用いることがある。

※本間は↑これにあたる。

補 足

非制限用法の関係代名詞には、不定代名詞 (all, both, either, neither, none, some, any, many, a few, half) などがつき、<不定代名詞+of which [whom]>の形がある。

※,some of which 「そのうちのいくらかは」 / ,half of which 「そのうちの半分は」

例：He sent me two books, neither of which I have read yet.

「彼は私に2冊の本を送ってくれたが、まだそのどちらも読んでいない」

4. I will do () I can for you.

- ① which ② how ③ what ④ that

(関西外語大)

和訳：私は、あなたのために出来ることはやります。

関係代名詞の what

- ・ what～「～こと、もの」 [=the thing(s) which～] ※what は、それ自体に先行詞を含む。
- ・ 名詞節を作り、文中で S・C・O (および前置詞の O) として働く。 ※ここでは will do の目的語。

例：I don't agree with what you've just said. 「私は、今あなたが言ったことに賛成ではない」
(= I don't agree with the thing which you've just said.)

前置詞の目的語として働いている例

5. Robert is a good scholar, and, (), a good teacher.

- ① what not ② still less ③ what is more ④ that is

(同志社大)

和訳：ロバートは優れた学者であり、その上、優れた教師でもある。

関係代名詞 what を含む慣用表現

- ・ what is more 「その上」
- ・ what is worse 「さらに悪いことには」
※ともに＜what is 比較級＞の形で副詞表現をつくるパターン。文頭または文中で「,」をつけて用いる。

- ・ what is called A 「いわゆる A」 (=what we [you/ they] call A)

例：He is what is called a “walking dictionary”. ※「,」をつけないことに注意！

- ・ what A is 「A の現在 (の姿)、A の人格」
- ・ what A was [used to be] 「A の昔 (の姿)」
- ・ what A should [ought to] be 「A のあるべき姿」
- ・ what A has 「A の財産」

例：He is not what he used to be. (= He is not the man that he used to be.)

- ・ A is to B what C is to D. 「A の B に対する関係は、C の D に対する関係と同じだ」

例：Reading is to the mind what food is to the body.

※一般に、C・D という分かりやすい関係を引き合いに出して、A・B の関係を説明する構文。

- ・ what with A and (what with) B 「A やら B やらで」

例：What with overwork and (what with) very little sleep, he fell ill.

※あまりよくない原因を並べる場合に用いる。

6. I was looking for my little brother () I believed was among the crowd.

- ① who ② whoever ③ whom ④ of whom

(東海大)

和訳：私は、その群衆の中に必ずいると思っていた弟を探していた。

考え方

I was looking for my little brother. I believed he was among the crowd.

一文にする際は、“he” が “I believed” を越え、主格の関係代名詞 **who** として置かれる。

連鎖関係代名詞節

関係代名詞の直後に、<S+V>が挿入されたように見える形。 ※関係代名詞の問題では最頻出項目！

※この場合、主格の関係代名詞 **who** であっても省略されることがある。

7. This is the house in () I was born.

- ① side ② that ③ where ④ which

(関東学院大)

和訳：これは私が生まれた家です。

考え方

本来の文 → This is the house. I was born in it.

前置詞の目的語を先行詞とする場合、次の2通りがある。

I. This is the house (which / that) I was born in.

- ・前置詞はそのままの位置に残す。
- ・目的格の関係代名詞なので、通常どおり省略できる。

II. This is the house in which I was born.

- ・前置詞もワンセットで前へ。
- ・この場合、前置詞の後ろの関係代名詞は省略することはできない。

＜前置詞+that＞の形はないので注意！

なお、ここでの **in which** は、関係副詞の **where** に置き換えることもできる。

関係副詞 (where, when, why, how)

前置詞+関係代名詞 = 関係副詞

- ・「場所」を表す先行詞の場合 … **where**
- ・「時」を表す先行詞の場合 … **when**
- ・「理由」を表す先行詞（通常 reason）の場合 … **why**
- ・先行詞をそれ自体に含み、the way in which の意味になる場合 … **how**

例：Let me know the time. He will arrive at the time.

= Let me know the time which he will arrive at.
at which he will arrive.
when he will arrive.

This is the way. We got it in the way.
= This is the way which we got it in.
the way in which we got it.
how we got it. ※the way how にはならない。

重要 → 関係副詞が導く節には、主要素を備えた完全な文がくる！

関係副詞を用いた慣用表現

- This is why…「こういうわけで…」 ※why の前に the reason が省略されている。
- This is how…「このようにして…」 ※how = the way in which

8. “Are you going somewhere during the vacation?” “Yes, I’ve found a nice beach () I can enjoy swimming even in February.”

- ① how ② when ③ where ④ which

(旧センター試験)

和訳：「休暇中どこかに出かけますか？」「はい、2月でも水泳が楽しめるよい砂浜を見つけたんです。」

※関係副詞の問題。詳しい解説は、前問の解説を参照。

文構造

I’ve found a nice beach. I can enjoy swimming at it even in February.
= I’ve found a nice beach which I can enjoy swimming at even in February.
at which I can enjoy swimming even in February.
where I can enjoy swimming even in February.

9. () is often the case with Steve, he was absent from class on that day.

- ① As ② Such ③ Which ④ What

(西南学院大)

和訳：スティーブにはよくあることだが、その日も授業を欠席した。

関係代名詞 as (疑似関係代名詞)

非制限用法で用いられ、前または後ろの文の「文内容」を先行詞とする用法がある。

※As = he was absent from class on that day

通例、次のような慣用表現として用いられる。

- 暗記** • as is often the case (with A) 「(Aには) よくあることだが」
• as is usual (with A) 「(Aには) いつものことだが」

また、関係代名詞 as は、制限用法として次のようにも用いられる。

- 暗記** • such 先行詞 as… 「…するような (先行詞)」
• the same 先行詞 as… 「…するのと同じ (先行詞)」
• as many [much] (+先行詞) as… 「…する全ての (先行詞), …するだけの (先行詞)」

例：Read only such books as will help you.
「あなたの役に立つような本だけを読みなさい」

He has the same dictionary as I have.
「彼は、私が持っているのと同じ辞書を持っています」

As many men as came were welcome.
「来た人はみな歓迎された」

10. () your problems are, they are surely less serious than mine.

- ① Whoever ② **Whatever** ③ However ④ Whenever

(関西外語大)

和訳：あなたが抱えている問題が何であれ、きっと私の問題ほど深刻ではない。

複合関係詞（疑問詞+ever）

- ・名詞節を作っている場合 → 「～するものは誰（どちら、何）でも」
- ・副詞節を作っている場合 → 「たとえ～であっても」[譲歩] ※ここでの **Whatever** は副詞節を形成。

例： **Whoever breaks this law** shall be punished. [名詞節]

「この法を破る者は誰でも罰せられる」

However busy you may be, you must do this work. [副詞節]

「あなたがどんなに忙しくても、この仕事をしなければならない」

補 足

- ・ **whenever, wherever, however** は副詞節しか形成しない。(＝常に譲歩)
- ・ 副詞節を形成している複合関係詞は、<**no matter**+疑問詞>で言い換えられる。

11. The English language is one of the richest languages in the world, and a writer in English has a wide choice of words () to express himself.

- ① which ② **in which** ③ how ④ where

(同志社大)

和訳：英語は世界で最も豊かな言語の一つであり、英語の書き手は、自分の考えを表現する言葉を幅広く選べる。

ポイント

<前置詞+関係代名詞+to 不定詞>の形で、直前の名詞を修飾する用法がある。

※「前置詞+関係代名詞」のセットが必ず「to 不定詞」の前にくるので、①③④は不可。

■ 次の日本語の意味になるように、()内の語または語句を並べかえて英文を完成しなさい。

12. そういったわけで、彼はその会合に出席した。

(the, he, present, is, why, was, meeting, at, that).

(静岡理工大 改)

正解 : **That is why he was present at the meeting.**

ポイント This [That] is (the reason) why… 「こう [そう] いうわけで…」

※詳しい解説は、問7の解説を参照。

13. 彼は、少ないながら持っていたお金をすべて彼女にあげた。

(money, what, had, he, little, her, gave, he).

(西南学院大 改)

正解 : **He gave her what little money he had.**

ポイント what little money S have 「少ないながら S が持っているすべてのお金」 ※頻出！

この what は、後に名詞を伴うことから“関係形容詞”とよばれる。

14. そのことを熟知していない者は発言を慎んでももらいたい。

(about it, those, their tongue, who, should, little, know, hold).

(龍谷大)

正解 : **Those who know little about it should hold their tongue.**

※hold one's tongue 「黙っている」

ポイント

those who～ 「～する人々」

those は who の先行詞として用いられた場合、「～する人々」の意味になる。

例 : **Heaven helps those who help themselves.** 「天は自ら助くる者を助く」 ※those = those people

15. 何でも好き勝手にできると思っていたかもしれないが、そうは問屋がよろさない。

You might have thought you could have your own way, but (way, not, go, the, is, things, that).

(高崎経済大)

正解 : **that is not the way things go**

※things go 「物事が進む」 cf. How are things going? 「調子はどうですか？」

ポイント

the way (that) S+V / the way in which S+V / how S+V

「SがVするやり方, SがVする様子」 ※問7の解説を参照。

考え方

that is not the way things go

「それは物事の進み方ではない」 → 「そうは物事は進まない」 → 「そうは間屋がおろさない」